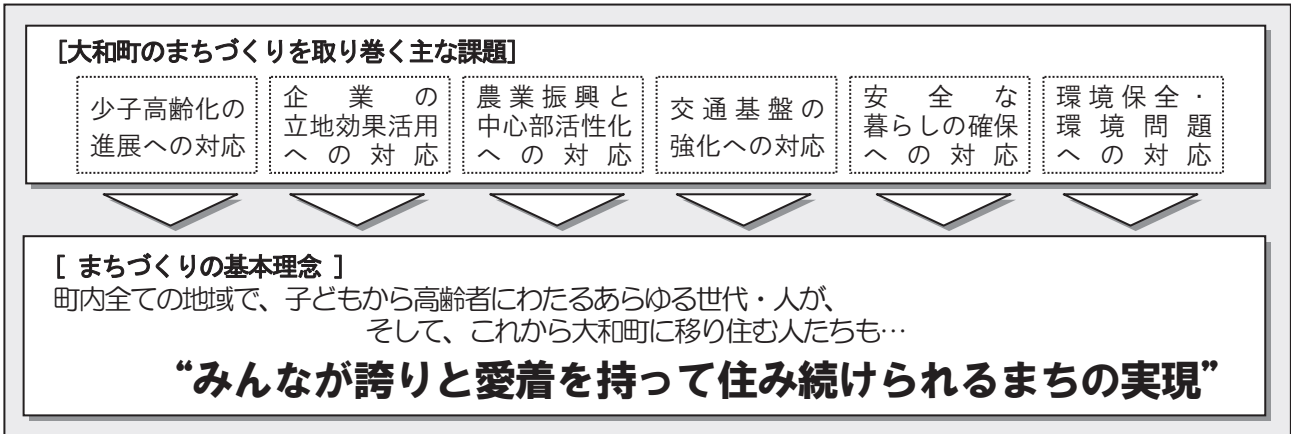


## 2 「大和町第四次総合計画」に掲げる将来目標

### (1) まちづくりの基本理念



本町は、七ツ森や船形連峰、吉田川、田園風景等の豊かな自然と緑に恵まれたまちであり、仙台都市圏北部・黒川郡の中心として発展してきましたが、近年は少子高齢化の進行や集落部での人口減少、農業・商業の停滞等が問題となっています。

しかし、企業の進出に伴う就業機会の拡大や地域産業への波及効果、立地企業で働く従業員とその家族の転入による人口増加等によるさらなる町勢発展が見込まれており、自然や歴史、文化、産業、街、人、交通基盤等の資源・集積を活かしたハード・ソフト両面からの定住環境整備を進めていくことが強く望まれています。

このような状況を踏まえ、大和町第四次総合計画では、“みんなが誇りと愛着を持って住み続けられるまちの実現”を、これからのまちづくりの基本理念に掲げています。

### (2) まちづくりのテーマ

豊かな自然と共生し、輝く未来に向けて躍進する

## みやぎの中核都市・大和 ～ 活力と笑顔に満ちたまちをめざして ～

まちづくりの基本理念に掲げる「住み続けられるまち」の実現に向けた定住環境整備を進めていくため、これまで本町では、農業と工業を基幹産業とする農工併進のまちづくりを進めてきました。

この結果、本町には数多くの企業が立地し、県内有数の工業出荷額等を有する「仙台都市圏北部の中核都市」に発展してきましたが、本町が目指す「中核都市づくり」は、これで終わりではありません。

本町が進める「中核都市づくり」は、すそ野が広く・地域産業経済への波及効果が高い業種を中心にさらなる工業の集積を図り、これまでの仙台都市圏北部の枠組みを超えて、宮城県のものづくり産業全体を力強くけん引する「みやぎの中核都市・大和」の実現を目指すものです。

さらには、こうした工業の振興を図ることにより、地域定住の前提である安定した就業の場の確保や七ツ森をはじめとする豊かな自然等環境に配慮しつつ、この効果を福祉や教育の充実、農林業や商業の振興、都市基盤の整備等に充て、生活や産業、文化等の様々な定住環境が整った『真の中核都市づくり』を目指します。

### (3) 将来フレーム

#### ① 人口フレーム

##### 1) 総人口、総世帯数

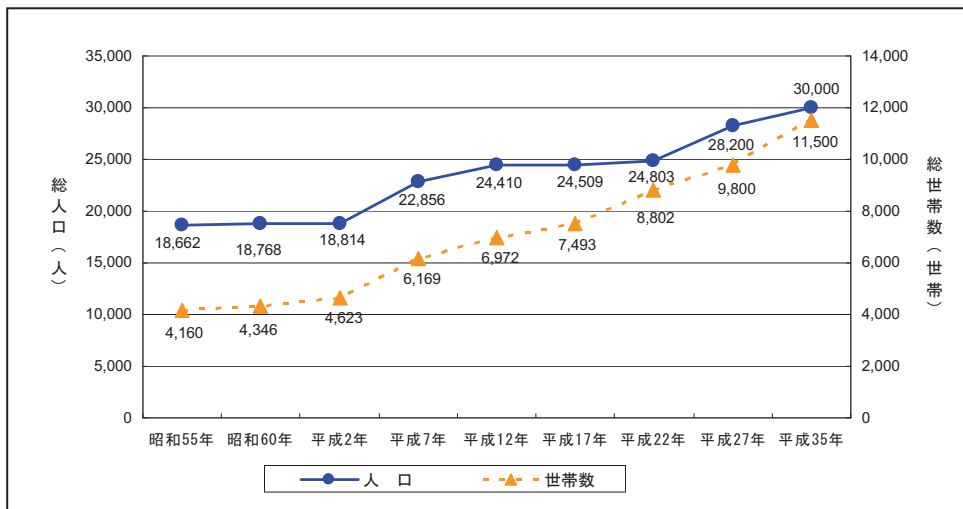
○ 総人口及び総世帯数は、各種産業の充実、強化とともに、良好な居住環境の整備や新たな住宅地の整備等による定住化の促進を図ることにより、今後さらなる増加を目指します。

平成35年 総人口 30,000人 (平成17~35年 約5,490人増加)  
 総世帯数 11,500世帯 ( " " 約4,010世帯増加)

本町の総人口及び総世帯数は、良好な居住環境を有する住宅地等の整備に伴い、平成2年以降急激に増加し、平成17年現在で24,509人、7,493世帯となっています。

総人口及び総世帯数は、企業立地に伴う安定した就業の場の確保による町外への転出を抑制するとともに、立地企業で働く人とその家族の町内への転入や、新市街地の整備に伴う良好な住宅地の供給や各種産業の充実、既成市街地や周辺住宅地における居住環境の改善による定住化の促進等により、今後さらなる増加を目指し、平成35年の総人口フレームを30,000人、総世帯数フレームを11,500世帯と設定します。

【 総人口、総世帯数の将来フレーム】



資料：国勢調査

注) 平成22年値は住民基本台帳(平成22年5月末現在、町HPより)

##### 2) 年齢別人口

○ 年齢別人口は、将来人口の増加に伴い、少子高齢化の速度は緩やかに進みますが、65歳以上の高齢人口は増加するものと予測されます。

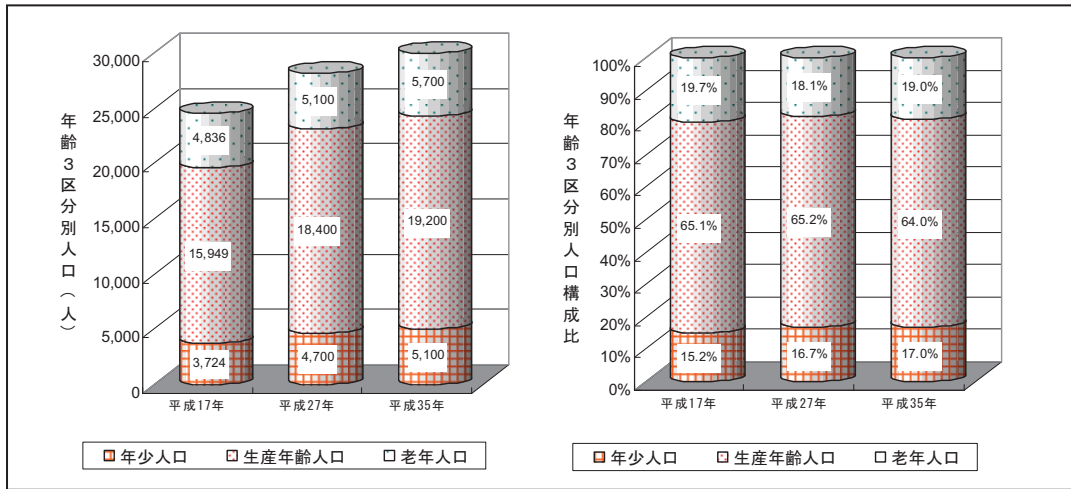
平成35年 年少人口 5,100人、17.0% (平成17~35年 1,380人増加、1.8%上昇)  
 生産年齢人口 19,200人、64.0% ( " " 3,250人増加、1.1%低下)  
 老年人口 5,700人、19.0% ( " " 860人増加、0.7%低下)

年齢別人口は、立地企業で働く人とその家族等の比較的若い世代の転入を促進し、新たな市街地等への入居者の増加を加味することにより、少子高齢化は緩やかに進むものと想定します。

このため、14歳以下の年少人口と15~64歳以下の生産年齢人口は今後増加し、平成35年には、年少人口が5,100人(平成17~35年にかけて約1,380人増加)、生産年齢人口が19,200人(同約3,250人増加)になるものと予測されます。

また、65歳以上の老年人口は平成17年現在の約1.18倍に当たる5,700人(平成17~35年にかけて約860人増加)になるものと予測されます。

【年齢3区分別人口の将来フレーム】



資料：国勢調査

3) 産業人口

○ 産業人口は、総人口の増加や新たな産業地の整備に伴い、常住地並びに従業地における就業人口ともに増加するものと予測されます。

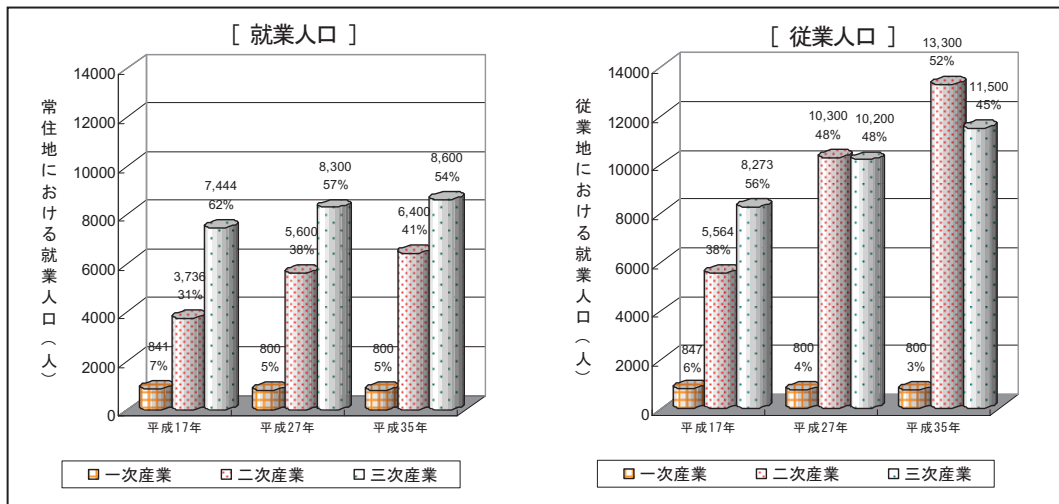
平成35年 常住地における就業人口 15,800人 (平成17~35年約 3,780人増加)  
 従業地 " " 25,600人 ( " " 約10,920人増加)

本町の産業人口は、仙台北部中核工業団地への企業の立地や、これに関連する各種企業の進出、また、良好な住宅地の整備に伴う夜間人口の増加等から、常住地（夜間人口ベース）並びに従業地（昼間人口ベース）ともに増加傾向にあり、仙台市をはじめとする隣接市町村との結びつきも高まってきています。

産業人口の今後の見通しは、常住地における就業人口は総人口の増加に伴い増加するとともに、従業地における就業人口は産業の拡大に伴い、引き続き増加するものと予測されます。

なお、産業別には、常住地並びに従業地ともに、二次と三次産業人口は引き続き増加していくものと予測されますが、一次産業人口は概ね一定で推移していくものと予測されます。

【産業人口（常住地並びに従業地における就業人口）の将来フレーム】



資料：国勢調査

※ 1次産業：一般的に「農林漁業」の状況をあらわします

産業分類：農業、林業、漁業

※ 2次産業：一般的に「工業」の状況をあらわします

産業分類：鉱業、建設業、製造業

※ 3次産業：一般的に「商業・業務、サービス業」の状況をあらわします

産業分類：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、教育・学習支援業、複合サービス事業、サービス業、公務

## ② 産業フレーム

### 1) 製造品出荷額等

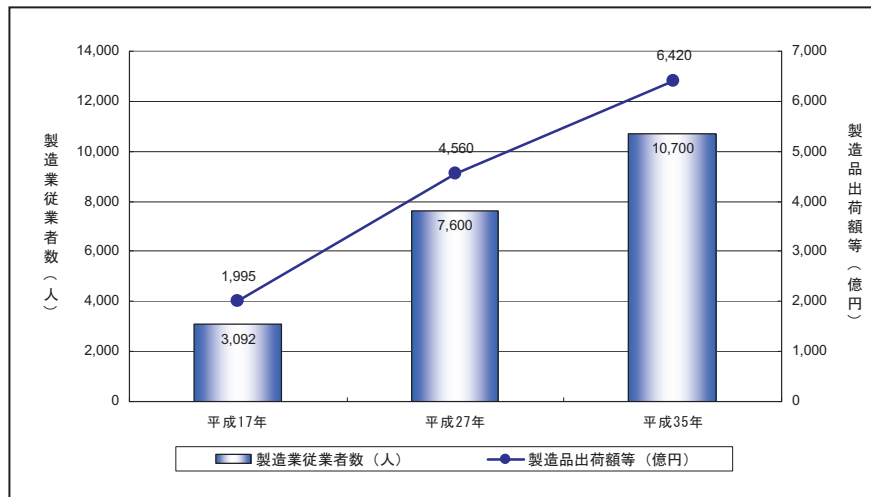
○「みやぎの中核都市」として引き続き積極的な企業誘致を展開していくものとし、これに伴い製造品出荷額等は今後大幅に増加していくものと予測されます。

平成35年 製造品出荷額等 6,420億円（平成17～35年 4,425億円増加）  
 製造業従業人口 10,700人（ " " 7,608人増加）

本町は、県内有数の製造品出荷額等を有していますが、近年は景気の停滞からその伸びが鈍化していました。

しかし、今後は「みやぎの中核都市・大和」として、自動車産業や高度電子機械産業などを中心に積極的な誘致を展開することにより、さらなる産業集積の拡大を図るものとし、平成35年における製造品出荷額等の将来フレームを6,420億円（平成17～35年にかけて4,425億円増加、平成17年の3.2倍）と設定します。

【製造品出荷額等の将来フレーム】



資料：工業統計調査

### 2) 町内総生産

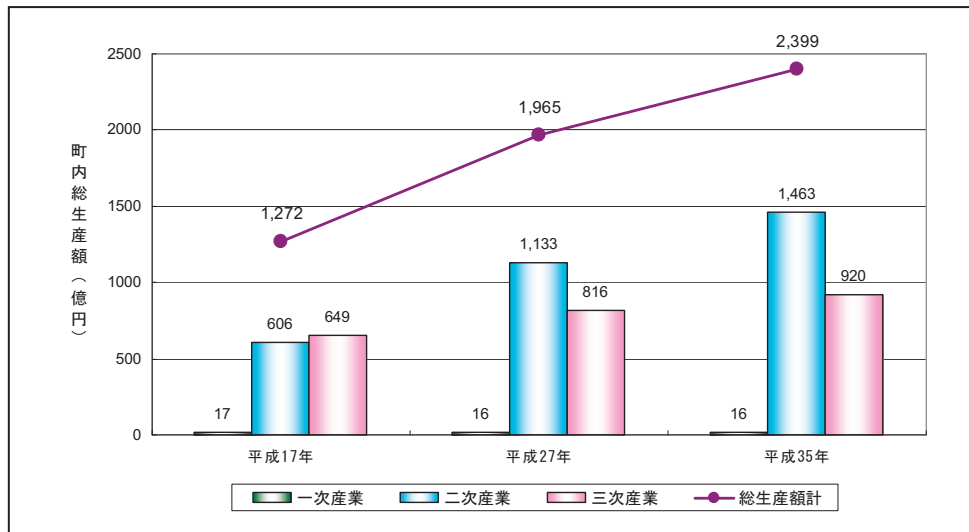
○町内総生産は、大規模な自動車産業や高度電子機械産業等の立地により、二次産業を中心に増加するものと予測されます。

平成35年町内総生産額 一次産業 16億円（平成17～35年 1億円減少）  
 二次産業 1,463億円（ " " 857億円増加）  
 三次産業 920億円（ " " 271億円増加）

町内総生産は、企業立地とその効果を活かした地域産業の振興等により、二次産業を中心に今後大幅な増加を図るものとし、平成35年における町内総生産額を、一次産業16億円（平成17年の0.9倍）、二次産業1,463億円（同2.4倍）、三次産業920億円（同1.4倍）、そして全産業合計で2,399億円（同1.9倍）と設定します。

なお、現在、産業別の町内総生産額は三次産業が最大ですが、今後は、大規模な自動車産業や高度電子機械産業等の工場や関連企業の立地・操業により二次産業が最大になるものと予測されます。

【 町内総生産額の将来フレーム】



資料：市町村所得統計